

2021年11月、私は株式会社日立システムズ様が主催するデータサイエンティスト志望学生向けのインターンシップ(※)に参加しました。

■インターンシップでの実施内容

今回のインターンシップは日立システムズ様による「高度データサイエンス人財育成に向けた取り組み」の一環として、統計学、機械学習などの知識、技法をデータに対して実践的に活用し、ビジネス課題をチームで解決する実習形式で開催されました。チームは大学院生3名と私の4名構成でした。

序盤に役割分担、および現状の問題点とデータの状態から「実現可能性とビジネスインパクトを考慮した分析課題」の設定を行いました。分析課題の解決と施策立案に向けて日立システムズ様のデータサイエンティストによるサポートのもと、“CRISP-DM”に基づくプロセスを進めていきました。

インターンシップは個人ワーク(各人の環境で統計学や機械学習を用いたデータ整形・データ分析を行う)主体で行われ、合間にチーム内討議を挟み、問題事項の共有と解決に向けて意見を出し合いました。試行錯誤を繰り返し、チームで徹底的に議論を行い、1つの成果報告資料にまとめ上げ、最終日の成果報告会では様々な現場のデータサイエンティストの方々にご意見をいただくことができました。全体を通じて、チームのメンバー全員が注意を払い、特に時間をかけたのは、データ整形のプロセスです。目的に則した意味のある分析・評価を行うために、前処理プロセスがいかに重要であるかを実感しました。

■インターンシップを通して得た気づき

今回のインターンシップでは、自分と異なるバックグラウンドを有する参加者との実習を経て、データ活用における今後の課題と、伸ばしていくべき強みを知ることができました。

印象的だったのは、データサイエンスの実務プロセスは、データサイエンティストだけでは成り立たないという点です。もちろん数学や情報科学に明るいデータサイエンティストは必要ですが、「データサイエンスの結果を顧客が使える形に落とし込む役目」も、同じく重要であると実感しました。経営学を学んでいる自分も、データサイエンスの実務プロセスに貢献できると分かり、これからやるべきことが言語化できたと感じております。

また、基本的な分析技法でも、正しく使うことで経営課題解決につながられる可能性があるという点は大きな発見でした。私には高度なAI技術の知識はありませんでしたが、単回帰分析や重回帰分析の知識を応用し、施策提案の根拠を生み出すことができました。上手くいったのは、チームメンバーと協力し、事前の課題設定やデータ整形を正確に行うことができていたからだと思います。

たとえ高度なAI技法の知識が不十分でも、経営学の領域で「目的に則した分析課題の設定」「適切なデータ整形」「統計知識の正確な利用」ができれば、データサイエンスのプロジェクトに貢献できるということを実感しました。

■最後に

経営学部生が、データサイエンティストと共通言語で話せるくらい、数学や統計学の基礎知識を身につけることで、経営学の視点をもって顧客とデータサイエンティストをつなげる存在になれると感じました。「データを活用した経営課題解決」に興味はあるけれど、自信が持てないなどの理由で迷っている学生の皆さんは、まずは1歩を踏み出してみてください。やってみることで今の自分に足りないことや、強みとして成長させるべき特性が見えてくると思います。私は、今回のインターンシップを通して、目指す将来像とそのため必要な課題が明らかになりました。本レポートを読んで、「データを活用した経営課題解決」に取り組む経営学部生が1人でも多く増えていただければ幸いです。

※インターンシップ概要(抜粋)

【テーマ】

データサイエンスを駆使した経営課題解決

⇒目標：テーマパークの来場客データを基に、経営課題解決のための施策を立案すること

【応募条件】

- ・統計学の知識(大学2年生以上)を有する
- ・Excel、Python等を使用し、構造化データに対して簡易な分析をした経験をもつ

【実施期間】

2021年11月4日(木)~17日(水)(14日間・在宅)

詳細は以下のウェブページをご参照ください。

http://www.cmds.kobe-u.ac.jp/events/2021/2021_hitachi_internship/index.html